



ボランティアだより

編集・発行
大阪狭山市ボランティア・センター
☎367-6601

新しい年度が始まり、はや二ヶ月。新生活にも慣れてきたところではないでしょうか。

今回のボランティアだよりは、二月十一日に市立公民館で行われました毎年恒例の「ボランティアジュニアスクール」を特集します。

*しクリエーション

四十人近い受講生とボランティアスタッフとの交流、リエーションの時間を担当しました。手話や折り紙、クラフトを担当するボランティアが自然の流れで子ども達の輪に加わって、一緒に楽しんでもらえたのがとても嬉しかったです。



*おはなし

「おはなし」「大坂弁であそぶ(大阪うまいもんのうた)」「大坂弁であそぼう(あかん、あかん・いやんか)」

①絵本であそぶ(大阪うまいもんのうた)
②大坂弁の詩で遊ぶ(あかん、あかん・いやんか)

始めは恥ずかしさや緊張等ぎこちない様子でしたが、自分の表現で大坂弁の詩を読み合った時には、掛け合いや交友読みなど、それぞれ工夫して、遊ぶのも楽しいし、プレゼント

「一拍遅れ(ハイはいハイ)」「グーザー」「もしかめ(二人組)」「あんたがたごとき(四人組)」「ペアさがし(言われた人だけ)」「トントンキヤツチ」などのコミュニケーションゲームを通して、お腹をかかえて笑ったり、手をとりあってお話ししたり、とても楽しい時間でした。

一人ひとりの個性を發揮しながら発表してくれたのは驚きました。また、誘導スタッフも子ども達の呼びかけに答えて、詩語りに参加してくれ、楽しませてもらいました。

絵本やおはなしは、自分で自分でなく、みんなが楽しめる空間を作るボランティア活動になりました。

一人ひとりの個性を發揮しながら発表してくれたのは驚きました。また、誘導スタッフも子ども達の呼びかけに答えて、詩語りに参加してくれ、楽しませてもらいました。

絵本やおはなしは、自分で自分でなく、みんなが楽しめる空間を作るボランティア活動になりました。

今年のテーマは「最初から自分で作る」でした。牛乳パックを材料にブンブンゴマを製作しました。きちんと寸法を測ってから型を取り、自分の好きな色でデコレーションしました。穴を開けて紐を通し、向きを間違えないでホッチキスで留めなければならなかったので、少し苦戦していました。透明感のあるかわいい空間を作ることを達成感があり、愛着がわいていました。

盲導犬と職員に来てもらいました。今回、盲導犬になる前の訓練犬たつたけれど、「デモンストレーション」で部屋の中を動く時には、盲導犬らしく行動し、子ども達は間近で見る事ができたのでとても良い勉強になつたと思います。

盲導犬と職員に来てもらいました。今回、盲導犬になる前の訓練犬たつたけれど、「デモンストレーション」で部屋の中を動く時には、盲導犬らしく行動し、子ども達は間近で見る事ができたのでとても良い勉強になつたと思います。

盲導犬と職員に来てもらいました。今回、実際には聴覚障害がいる人から聞くことがなかなか難しいのでとても貴重な話でした。

盲導犬と職員に来てもらいました。今回、実際には聴覚障害がいる人から聞くことがなかなか難しいのでとても貴重な話でした。

*昼食



*点字

「おかわり!」と元気な子ども達の声。作った私たちも思わずニッコリ。朝早くから十人のメンバーが集まり、二つの鍋にたくさん道具を入れて、豚汁を作りました。大きな釜で焼き、ふつくらとおいしいご飯ができました。そこに昆布とおからを入れて、一人におにぎり二個とデザートにバナナを付けました。みんなで時計を見ながら、なんとか間に合い六十人分を作りました。おいしそうに頬ばつて食べる姿を見ていると、なんだか嬉しくなり、参加して良かったと思いました。

例年と比べてたっぷりあったので、少し難しいけれど、折り紙の楽しさを体験できるかなと思える作品「クルンクル」にしました。機会があれば一冊の絵本を参加者全員で作るので、「どの頁に貼るの?」と大騒ぎでしたが、「傾聴ボランティアさやま」ができました。

大阪狭山市社会福祉協議会主催の傾聴ボランティア養成講座が昨年の十一月から十二月にかけて三回開催されました。講師は吹田傾聴「ほほえみ」から来てもらいました。傾聴とは何かに始まり、傾聴の大切さ、楽しさ、やりがい、実践、そして吹田市の活動状況まで、三回の講座は本当に盛りだくさんありました。

そしてもっと傾聴を知ったい、やつてみたいと思つた人たちが集まり、今年の三月に「傾聴ボランティアさやま」ができました。

この講座に参加したきつかけは、何がボランティアをしてみたのが特技がない人、話を聴くことならできると思つて参加した人、認知症の家族

新グループ紹介

(傾聴ボランティアさやま)

のためスムーズな会話ができるように対処法を習いに来た人、他のボランティアを活動中だが、傾聴ができるもつと自信を持つて活動ができると思つて参加した人、とさまざまなものであります。逆にお話を聞いて欲しいと思つたこともあります。誰でもおしゃべりをして気分がすつきしたことがあります。傾聴を必要としている人は、子どもから高齢者まで大勢います。私たちは、高齢者の話相手をしています。

毎月第一木曜日の午後、さつき荘で例会を開いています。興味を持った人はのぞいてみください。お問い合わせはボランティアセンターまで。

ントをすると喜ばれます。

盲導犬と職員に来てもらいました。今回、盲導犬になる前の訓練犬たつたけれど、「デモンストレーション」で部屋の中を動く時には、盲導犬らしく行動し、子ども達は間近で見る事ができたのでとても良い勉強になつたと思います。

*朗読

あまんきみこ作「白いぼうし」を読み継ぎ、テープに録音して視覚障がい者の皆さんに聞いてもらうことを目標に取り組みましたが、始めから

か無いのでとても貴重な話でした。

盲導犬と職員に来てもらいました。今回、実際には聴覚障がいる人から聞くことがなかなか難しいのでとても貴重な話でした。

盲導犬と職員に来てもらいました。今回、実際には聴覚障がいる人から聞くことがなかなか難しいのでとても貴重な話でした。

二月二十八日、SAYAK Aホールで「高齢になつても、住み慣れた地域で住み続けるまちへ」をテーマに、市と市民、市内の介護サービス事業者の協力により開催されました。

ボランティアとして、車イス体験コーナーでは、来場者が特設のコースを車イスで走行するのを補助しました。点字ブロックや、凸凹道など、日常生活の上で当たり前のようなコースが再現されていました。あまり車イスに乗り慣れない人の介助をしたり、車イスの利用を考えている人に説明をしながらコースを走行しました。また、自助具の工房さやまによる自助具の展示コーナーもありました。日頃製作している作品を展示しま

音楽ボランティア講座

一月二十三日、三十日、二月十三日にわたり、三回シリーズで開催されました。

高齢者施設などでボランティア活動をする際、音楽はとても有効な手段として使われます。

そこで、音楽療法士の朝川都さんを講師として講座を開きました。一人目は、音楽療法とは、音楽を心身の健康に役立てる様々な営みとしているという定義などを学びました。その人にあつたプランを作成し、音楽を使って目標へと導いていきます。

ボランティアでは、音楽療法まで出来ないので、その導入を学び、高齢者の人との関

わりや音楽の使い方を学びました。二回目は、「結婚・夫婦の音楽回想」で、三回目は、「昭和十一年・終戦直後に流行った歌」をテーマに実際に歌を歌いました。例えは、結婚をテーマにした歌を歌う時は、昔、嫁入り手を引き出していくかの話術も教えてもらいました。

歌うだけではなく、この歌を歌う時は、どのようにして相手を引き出していくかの話術も教えてもらいました。

十五年・終戦直後に流行った歌を歌いました。たまたま山崎直子さんは語った。地球は永遠に美しく平和な星であつてほしい誰もが願っています。

これを機会にボランティアをしてみようという受講生もいました。こので、これらの活動がかつたと言い、これを生かしてボランティアをしていきました。この声が聞かれました。

高齢者施設などでボランティア活動をする際、音楽はとても有効な手段として使われます。



と同時に、引っ込み思案な性格の気持ちを開いてくれたりします。受講生は皆楽しめたと言い、これを生かしてボランティアをしていきました。この声が聞かれました。これを機会にボランティアをしてみようという受講生もいました。こので、これらの活動が

「宇宙から見た地球は想像以上に美しかった」日本人女性と一緒に美しかった」という感想で、三回目の宇宙飛行を果たして二人目の宇宙飛行を果たしました。山崎直子さんは語った。地球は永遠に美しく平和な星であつてほしい誰もが願っています。

今、地球規模の環境問題として、温暖化、オゾン層の破壊、森林破壊、海洋汚染などが心配されています。地球環境を考えています。地球環境を考え自分でできる何らかの行動を起こす時期だと思います。

●ゴミを分別して再資源化を推進しましょう。

家庭で出来るエコライフを取り組みましょう。

では定着し、毎月社会福祉協議会に、ボランティアがたくさん集まって、磁石で不純物を取り除いて重さを測って送り、もう8台もの車イスに代わっています。ベットボトルのキャップもリサイクル業者に売却した利益を慈善団体を通して、発展途上国の中でも達にフックチンを送る

ことができます。

帰りのバスの中、「僕、今日のことを作文に書くわ」という声が聞こえ、ホッと和みました。

GO! GO! われあいの里ワールド

で遊びのコーナーがあり、模擬店では、カレーライス、イカ焼きなど人気があり、行列ができていました。多目的

広場では、紙芝居で日本昔話を聞かせたり、クラフトコー

ハートケアフェスタ

がら、来場者に声かけ、多くの人に知つてもらい、道具を活用してもらえるようPRを行っていました。今年は、昨年以上の来場者があつたよ

うです。テーマのような暮らしが出来るよう、ボランティアとして関わつていけたらと思いました。

さやま池まつり

行ってきました

二月二十八日、午後二時より

Aホールで「高齢になつても、住み慣れた地域で住み続けるまちへ」をテーマに、市と市民、市内の介護サービス事業者の協力により開催されま

た。ボランティアとして、車イス体験コーナーでは、来場者が特設のコースを車イスで走行するのを補助しました。点字ブロックや、凸凹道など、日常生活の上で当たり前のようなコースが再現されていました。あまり車イスに乗り慣れない人の介助をしたり、車イスの利用を考えている人に説明をしながらコースを走行しました。また、自助具の工房さやまによる自助具の展示コーナーもありました。日頃製作している作品を展示しな

水と火との調和の「まつり」が開催されました。四月二十四日(土)、二十五日(日)来場者約六万六千人でございました。

二十二時から、大阪狭山市のマスコットキャラクター「さやりんの声コンテスト」では、



七時頃池の周りに並べられた灯火台に点火された見事な灯火輪が浮かびあがりました。八時頃小花火打ち上げで歓声が上がりました。

二十二時頃、午前九時より龍神舞台でヤングカーニバル、ダンス、軽音楽など若者たちのパワーを存分に發揮させていました。

七時頃池の周りに並べられた灯火台に点火された見事な灯火輪が浮かびあがりました。八時頃小花火打ち上げで歓声が上がりました。

二十二時から、大阪狭山市のマスコットキャラクター「さやりんの声コンテスト」では、



ボーリングカウトの人達の協力で、喜んでいました。模擬店もたくさんあり、来場者は並んで買い物をしていました。そのほか消防、警察の広場では、ハシゴ車に乗せてもらったり、パトロール車に乗り、云一つない天候に恵まれ、子ども達から大人まで休日の声が上がりました。

五月五日こどもの日。初夏では、ハシゴ車に乗せてもらったり、バトロール車に乗り、ひとつときを心か喜んでいました。子ども達が、花と緑の広場は、つたり、バトロール車に乗り、花と緑の広場では、野菜や花苗の販売があり、思わず買つてしまひやすみれなど美しく、リス

ユースボーツでは、開幕ボーリュード投げのゲームも体験で

編集後記

新緑の美しさが目に眩しく、

●さやま子育ておしゃべりライン

子育てに関するさまざまなことを、気軽におしゃべりしていただき、お聴きする電話です。

相談日は、毎月第2・4木曜日の午前10時~16時
まいペーす 8(367)6601

